

岳景

学び

つながり 切り拓く

帯広市立八千代中学校



夜明けがすっかり早くなりました。朝日にうっすら染まるポロシりに心が洗われます。保護者の方・地域の方には日頃より大変お世話になっております。新年度におかれましても、教職員一同、一意専心お子様の心身の成長に尽力いたします。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

令和6年4月8日(月) No.1 校長 嘉藤 貴充

—— 船は港にいるときが最も安全だが、それは船がつくられた目的ではない ——

そう 令和6年度 八千代中丸 いざ出航

入学式式辞 改

新入生の二人には、まず、八千代中学校の教育目標を覚えてほしいと思います。五七調にまとめると「学び、つながり、切り拓く」です。覚えやすいですね。ぜひ、この機会に覚えてください。

「学び つながり 切り拓く」

です。学ぶとは勉強することを意味しますが、教科書を開く以外の勉強がたくさんあります。

例えば、家で今日の晩ご飯のひと品を作ってみるのも勉強です。例えばお味噌汁、例えばカレーライス。

つながるとは他者とつながることです。知っている人と一緒に何かをすることもつながりです。見ず知らずの人に道を尋ねるのもつながりです。さらには、見知らぬ人に親切にすることもつながりの一つです。そしてもっとも大切なつながりは、困ったときに「助けて」と口にすることです。

「切り拓く」については、一頭の象の例えを紹介します。子象が一頭います。想像してください。この子象の足には鎖がつながっており、自由に動くことができません。そんな状況で月日が経ち、子象は成長しました。そう、すっかり大きな象になりました。足につながっている鎖も簡単に切れるほど大きくなりました。自由にどこかに行きたいとすっかり大きくなった象は願ったのですが、足に繋がれている鎖を目にすると、「鎖は切れない、どこにも行けない」とすっかり諦めてしまうのです。(裏面へ)

このお話は象の話ではありません。新入生のための話でもありません。大人も含めた私たち全員のお話です。

知らず知らずに諦めていることは何か。知らず知らずに見失っている自分の可能性は何か。人は忘れたことを忘れてしまう生き物ですから、この機会によく考えてみてください。切り拓くとは自分がやりたいことをやることです。なりたい自分になるために一步一步進んでいくことです。

なお「切り拓く」に関わるお願いがあります。中学校生活では小学校で学ばなかったことをたくさん勉強します。上手くいかないことやわからないことに何度も何度もぶつかるかと思えます。そんなときには「へこたれない能力」を発揮してほしいのです。国語や数学、保健体育と同じように、「へこたれない」というのも一つの能力です。

何かにぶつかったら、それをよい機会に成長するのもよし。やり直してもいいし、受け流してもいい。もっというと「忘れる」というのも立派な能力です。

さて、保護者の皆様、本日はお子様の中学校へのご入学、誠におめでとうございます。

数値による結果が求められる今般ですが、数値では表せられない能力の重要性が注目されています。非認知能力ともいわれています。自分の姿を一步離れたところから見るメタ認知力、次々と方法を改善していく修正能力、新しい環境に順応する適応力などがあります。他にも大切なものがあります。自分の言動を肯定的に評価する自己肯定感、他者と協働していく社会的スキル、単純なことでも続けていける継続力などです。どの人間も一人ひとり顔が異なるように、輝く一面も異なります。大人の世代とは違う世界を漕ぎ出していく子供たちを多様な価値観で評価してあげていってください。また、世間は走っていける距離ばかり注目しますが、歩いていける距離もぜひ、評価してあげてください。どうやら成功の秘訣は走っていける距離ではなく、歩いていける距離を大切にすることにあるようです。

【編集後記】「文字は大きく、写真は多め、文は少なく」を編集方針にして、地域の方に読まれる学校だよりを目指します。今回は文字ばかりになってしまいました。お許しください。小学校から旅立った2名の新入生を八広地域で温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。写真は八千代中テニスコートからこぼれたボールを届けてくれた広野小児童の姿を撮ったものです。八広は一つです。

